

生分解性の紫外線吸収剤

シプロ化成、開発にめど

紫外線吸収剤のバイオニアであるシプロ化成(福井県坂井市)は、生分解性プラスチックおよび一般的なプラスチックの両方で高い紫外線吸収特性と光安定性を持つ新たな紫外線吸収剤の開発にめどをつけた。2024年に成層中小企業研究開発等奨励事業(Go-tech事業)に採択された生分解性を持つ紫外線吸収剤の開発で大阪公立大学、大阪産業技術研究所との連携研究を進めてきた。詳細な紫外線吸収特性のデータなどはまだ公開されていないが「従来のプラスチックと生分解性プラスチックの双方へ適用が可能(シプロ化成)という。今後、さらに開発品をラッシュアップし、環境対応型の新たな紫外線吸収剤として市場訴求を検討する。

従来プラにも適用可能

プラスチックなどの劣化や物性、性能低下の原因となる紫外線。この影響を防ぐ紫外線吸収剤を「主剤、防錆剤の3分野で」変換材料で期待される新

青色蛍光色素を大学や他社との協業で開発した。昨年には従来の水溶性紫外線吸収剤を持つ課題を技術的に解決し、水中で弱酸性から中性、水溶性状態でも紫外線分解や変色に強く、高い光安定性の水溶性紫外線吸収剤を開発する新たな新製品開発にも注力している。今回、生分解性プラスチックと従来のプラスチックの両方で適用可能な

新紫外線吸収剤は、令和6年度Go-tech事業採択を受け、産学連携研究として開発に取り組んできた。同社によると生分解性プラスチックの需要が増えている半面、自然環境中で生分解性プラスチックとしても生分解する紫外線吸収剤は、これまで実用化されていない。開発品はプラスチックの紫外線劣化を防止する紫外線吸収剤、従来品と同等の高い紫外線吸収性と光安定性を同時に生分解も併せ持つっており、これまでになかった紫外線吸収剤になど

いう。